

# キャリア教育の推進について

## 配布資料一覧

資料 2-1	初等中等教育におけるキャリア教育について（全体像）	2
資料 2-2	キャリア教育が必要とされる背景について子どもたちの現状を示すデータから	4
資料 2-3	高等学校学習指導要領の改訂 （キャリア教育関連部分（抜粋））	10
資料 2-4	キャリア教育のより一層の理解のために文部科学省が展開する施策 及び キャリア教育に関する中長期的課題について	12

**初等中等教育におけるキャリア教育について**  
**(全体像)**

# 初等中等教育におけるキャリア教育について

## 背景

産業構造や就業構造の急激な変化、子ども・若者の変化等、社会全体を通じた構造的問題が存在。

### ◆「社会的・職業的自立」に向けて 様々な課題が見られる。

- ・進路選択に対する目的意識の希薄さ
- ・コミュニケーション能力等職業人としての基本的能力の低下
- ・職業意識・職業観の未熟さ

### ◆「学校から社会・職業への移行」が 円滑に行われていない。

- ・非正規雇用率の高さ、無業者の存在
- ・早期離職者の存在

### ◆学校での生活や学びに対する目的意識の希薄さが見られる。

- ・将来への不安や学校での学習と将来との関係が見出せないことから、学習意欲が低下、学習習慣が確立しない

若者個人のみの問題だけではなく、**社会を構成する各界が互いに役割を認識し、一体となり対応することが必要**。その中で、**学校教育は重要な役割を果たすものであり、キャリア教育を充実していかなければならない**。

## 考え方

### キャリア教育とは

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達(※)を促す教育」

(※)キャリア発達:社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。

「**勤労観、職業観**」のみを育てる教育ではない。勤労観・職業観の育成に過度に焦点が絞られてがちであるが、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力の育成が、キャリア教育が目指すべき中心的な課題。

**職業教育はキャリア教育と同義ではない**。職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するもの。

### 基本的な方向性

- 後期中等教育修了までに、**生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成**し、これらの育成を通じて、**価値観、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立できる子ども・若者の育成**すること。
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「**基礎的・汎用的能力**」を育成すること。
- キャリア教育を実践し、**学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起**すること。

### <「基礎的・汎用的能力」とは>

「**人間関係形成・社会形成能力**」 多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力。

「**自己理解・自己管理能力**」 自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力。

「**課題対応能力**」 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

「**キャリアプランニング能力**」 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

## 学校における実践の具体的方向性

- キャリア教育を推進する**校内組織の整備**
- 学校における**キャリア教育目標**や**指導計画**の作成
- 教育活動全体**を通じた実践(キャリア教育の機会となりうる「断片」の意識化と体系的・系統的な取組)
- 体験的な学習活動**と、その事前と事後に行われる**指導の充実**

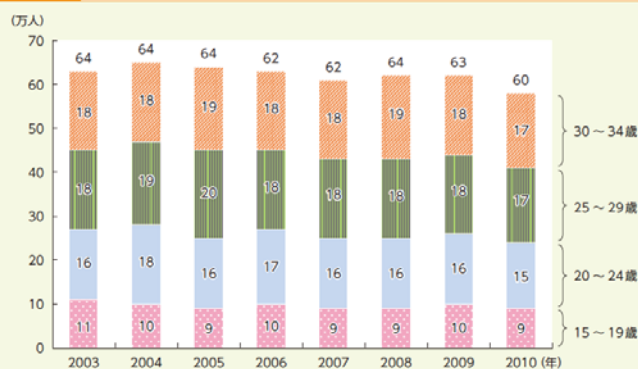
**キャリア教育が必要とされる背景について**  
**子どもたちの現状を示すデータから**

# データが示す中高生の今

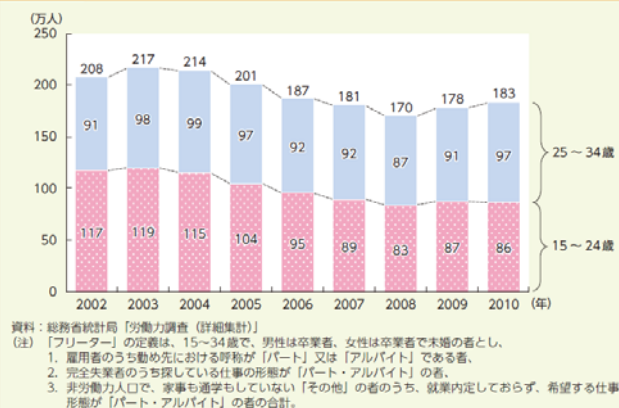


## 若年者雇用をめぐる状況をどう見るか

図表2-4-3 ニートの数の推移

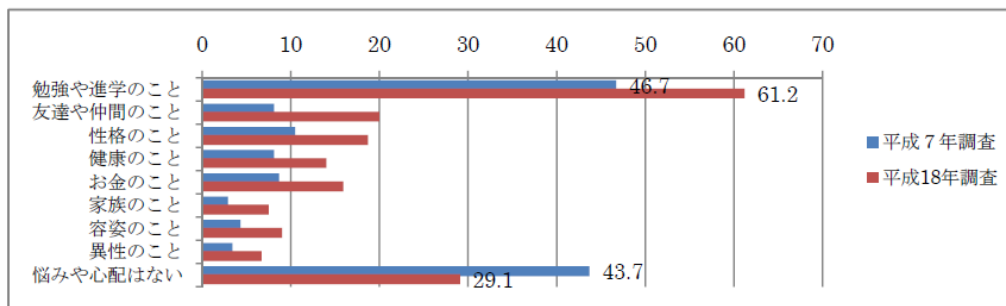


図表2-4-4 フリーターの数の推移



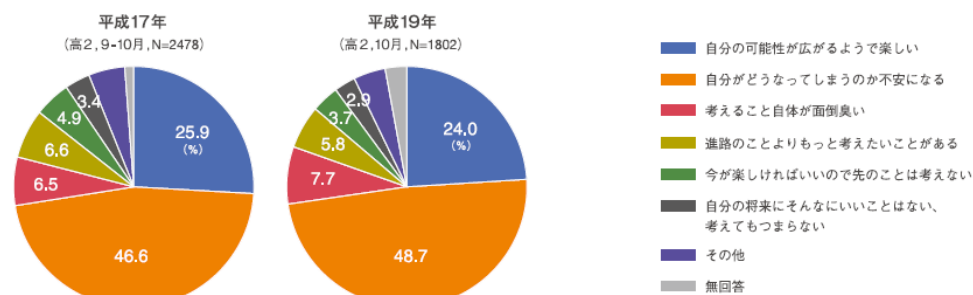
# 中高生の悩み

図1 中学生の悩みや心配事



《出典》内閣府『低年齢少年の生活と意識に関する調査』2007

高校生が進路を考えたときの気持ち



\*資料出所:社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査「第3回高校生と保護者の進路に関する意識調査(2007)」報告書

CAREER EDUCATION

表1 将来就きたい仕事 (小学生・中学生・高校生)

	小学生男子		小学生女子	
	平成7年調査	平成18年調査	平成7年調査	平成18年調査
1位	スポーツ選手 (25.3%)	スポーツ選手 (33.6%)	幼稚園や小中高等学校の先生 (12.3%)	獣医、動物飼育、ペット屋など (11.0%)
2位	会社員 (5.6%)	医者、歯科医、薬剤師 (4.8%)	看護婦、保母など (9.7%)	幼稚園・保育園の先生 (保育士) (9.9%)
3位	商店主など 自営業者 (3.6%)	学校の先生 (3.7%)	画家、音楽家、作家、マンガ家など (9.2%)	パン屋、ケーキ屋、花屋 (9.2%)
「わからない」	38.2%	17.6%	37.2%	14.9%
	中学生男子		中学生女子	
	平成7年調査	平成18年調査	平成7年調査	平成18年調査
1位	会社員 (8.8%)	スポーツ選手 (14.0%)	看護婦、保母など (13.8%)	幼稚園・保育園の先生 (保育士) (11.8%)
2位	スポーツ選手 (8.5%)	会社員 (6.1%)	画家、音楽家、作家、マンガ家など (9.3%)	看護師、介護福祉士 (10.4%)
3位	プログラマー、建築士、通訳など (7.6%)	コンピュータ関係 (5.9%)	幼稚園や小中高等学校の先生 (8.2%)	画家、デザイナー、写真家 (5.5%)
「わからない」	44.5%	23.7%	37.5%	16.1%
	高校2年生男子		高校2年生女子	
	平成17年調査	平成19年調査	平成17年調査	平成19年調査
1位	公務員 (国家・地方) (8.7%)	製造・加工・組立などのものづくり (7.1%)	保育士・幼稚園教諭 (7.7%)	看護師 (8.1%)
2位	技術者・研究者 (5.6%)	公務員 (国家・地方) (7.0%)	看護師 (5.7%)	保育士・幼稚園教諭 (6.0%)
3位	教師 (4.7%)	技術者・研究者 (4.4%)	教師 (4.1%)	教師 (4.4%)
「ない」「考えたことがない」	38.3%	38.2%	26.6%	24.2%

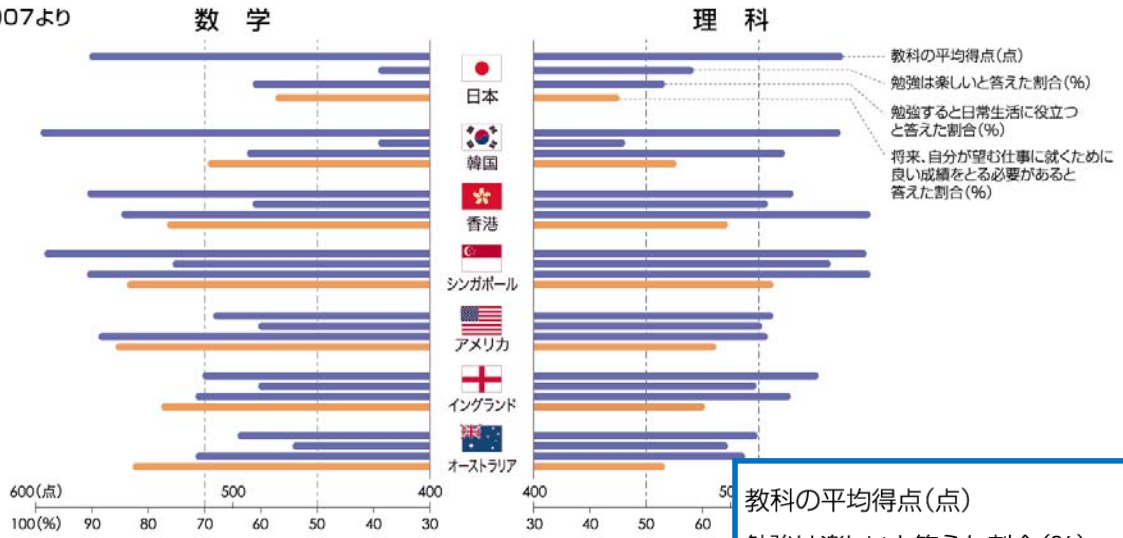
《出典》小学生・中学生については、内閣府『低年齢少年の生活と意識に関する調査』2007。高校生については、社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」第2回報告書(2005)及び第3回報告書(2007)。

CAR



# TIMSS 2007 (中学2年生)

●TIMSS 2007より



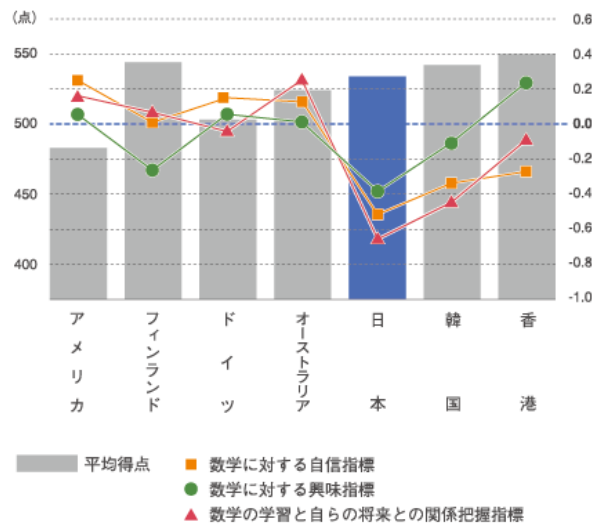
教科の平均得点(点)  
勉強は楽しいと答えた割合(%)  
勉強すると日常生活に役立つと答えた割合(%)  
将来、自分が望む仕事に就くために良い成績をとる必要があると答えた割合(%)



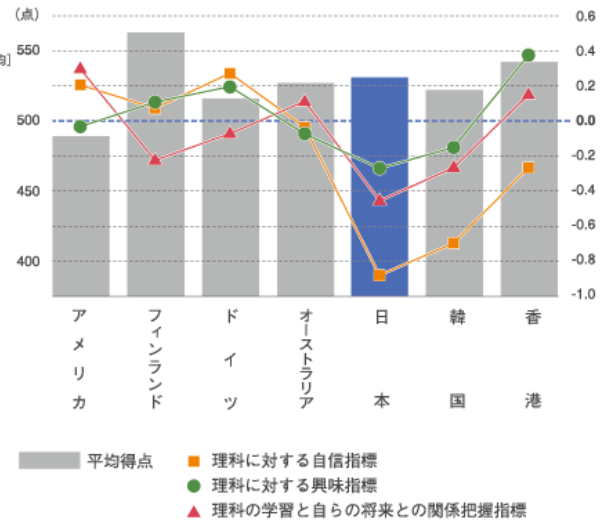
# PISA2003

# PISA2006

数学的リテラシー (PISA2003より)



科学的リテラシー (PISA2006より)

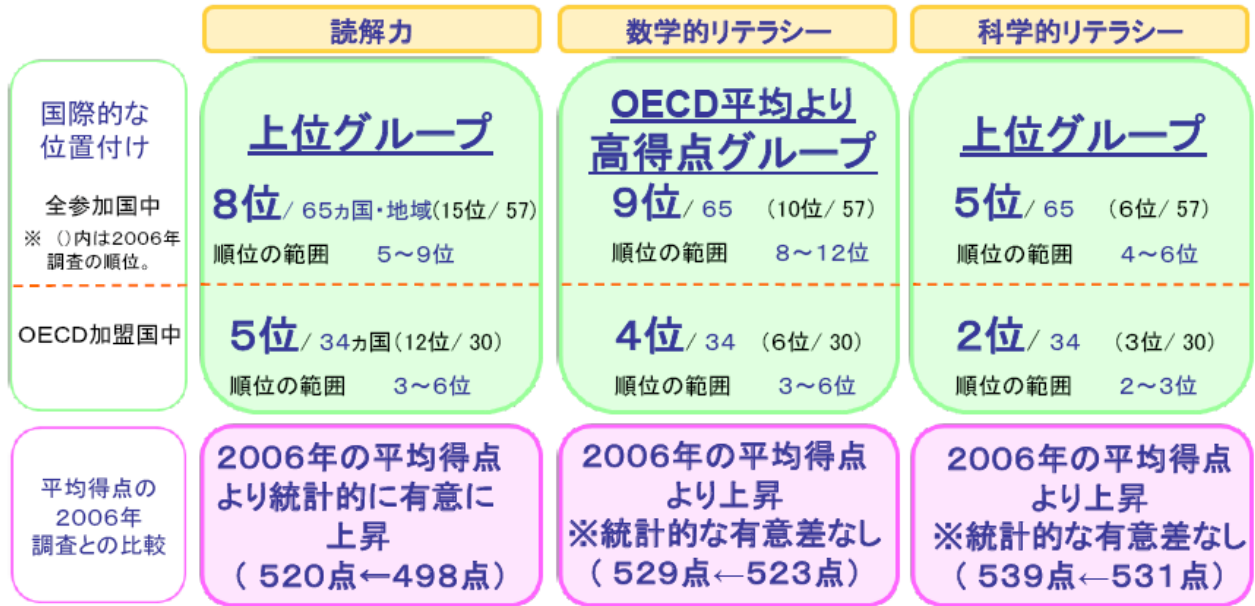


\*注: グラフ中の各指標は、各設問に対する肯定的回答(全くそう思う・そう思う)のOECD加盟国平均を0.0として算出されたものです。  
「自信指標」=「理科(数学)の内容ならすぐに理解できる」など5項目の設問に対する回答に基づく  
「興味指標」=「科学(数学)についての本を読むのが好きだ」など5項目の設問に対する回答に基づく  
「自らの将来との関係把握指標」=「理科(数学)の科目を勉強することは、将来の仕事の可能性を広げてくれるので、私にとってやりがいがある」など5項目の設問に対する回答に基づく



# PISA 2009

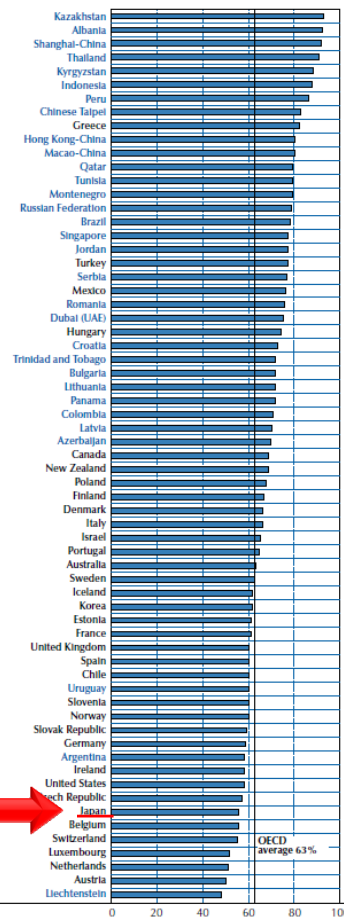
## 【分野別の結果】



CAREER EDUCATION

「趣味として読書をする」  
生徒の割合  
(Percentage of students who read for enjoyment)

Figure III.2.3  
Percentage of students who read for enjoyment



日本

Figure III.2.12 [Part 1/2] What students read for enjoyment

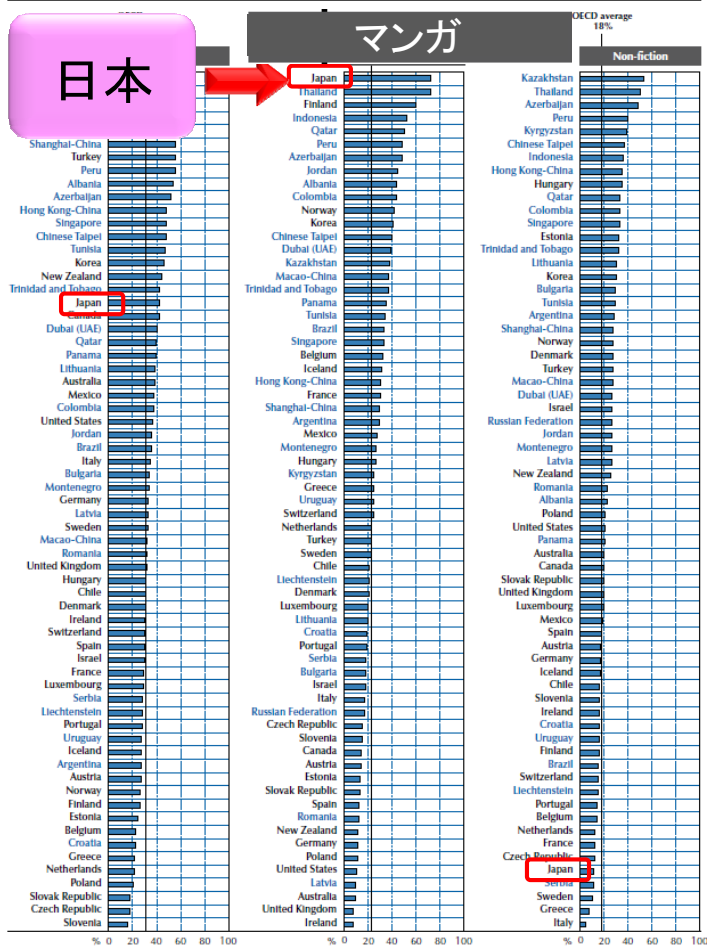
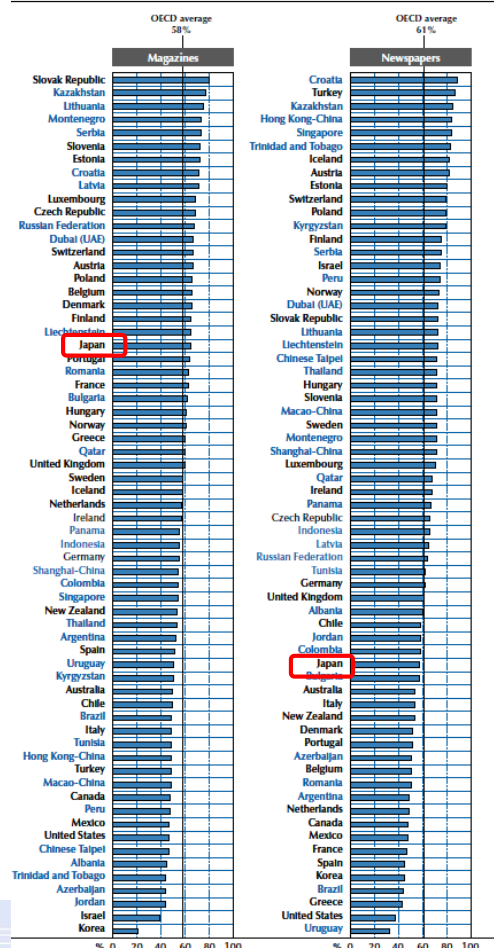


Figure III.2.12 [Part 2/2] What students read for enjoyment



## 以上のデータから見えてくる子どもたちの現状

### ◆「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題

- ・進路選択に対する目的意識の希薄さ
- ・コミュニケーション能力等職業人としての基本的能力の低下
- ・職業意識・職業観の未熟さ

### ◆「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていない

- ・非正規雇用率の高さ、無業者の存在
- ・早期離職者の存在

### ◆学校での生活や学びに対する目的意識の希薄さ

- ・将来への不安や学校での学習と将来との関係が見出せないことから、学習意欲が低下、学習習慣が確立しない。